

# 「長く座ると下腹部が痛い…」 それ、血管の病気かもしれません

「長時間座っていると、骨盤の奥が重く痛む」「夕方になると下腹部がなんとなくつらい」「検査では『特に異常はありません』と言われるけれど、違和感は続いている」。もしこのような症状に心当たりがあれば、骨盤静脈疾患（骨盤鬱滞症候群）という血管の病気が関係しているかもしれません。あまり聞き慣れない病名ですが、実は女性に比較的多い病気で、気付かれないまま過ごしている方が少なくないと考えられています。生理解痛や体質の問題と思われる、原因不明の骨盤痛として長く悩んでいたりする方もいます。

この病気は、骨盤の中にある「静脈」という血管で血液の流れが滞り、血管が広がってしまうことで起こります。血液がたまることで、骨盤の奥の重だるさ、鈍い痛み、下腹部の違和感などが現れます。特徴的なのは、座っているとぎや立ちつばなしのときに症状が出やすく、横になると楽になることです。デスクワークのあとに症状が強くなる、夕方になるとつらくなる、といった形で感じる方もいます。

こうした症状は婦人科の検査でも異常が見つかからないことがあり「気のせい」「体質」と思われてしまうこともあります。しかし、血管の問題が原因となっている場合もあり、血管を専門とする医師が診断・治療できる病気です。画像検査によって血管の状態を調べることで分かることがあり、体への負担が比較的小さい治療法もあります。



市立函館病院  
心臓血管外科

新垣 正美 科長

## 略歴

平成14年、北海道大学医学部卒業後、手稲溪仁会病院、東京女子医科大学病院、森ノ宮病院、チューリッヒ大学病院勤務を経て、平成27年、市立函館病院に着任。日本外科学会外科専門医、日本循環器学会循環器専門医、日本心臓血管外科学会心臓血管外科専門医。